

【必修】中学校・高等学校教育の最新事情

【選択必修】社会の担い手となるための学びとは

- ◆期日 【必修】中学校・高等学校教育の最新事情 平成31年8月9日（金）
【選択必修】社会の担い手となるための学びとは 平成31年8月8日（木）
- ◆主な対象 中学校・高等学校教諭
- ◆定員 50名
- ◆会場 渋谷キャンパス
- ◆応募期間（仮申込） 平成31年4月16日（火）10:00～4月19日（金）23:59
- ◆受講料 1万円

【必修】中学校・高等学校教育の最新事情

- ◆時間数 6時間【必修領域】「全ての受講者が受講する領域」

◆講習内容

本講習では、「国の教育施策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題（「カウンセリングマインドの必要性」と「居場所づくりを意識した集団形成」について）」の4つの事項について、主に中学校・高等学校教員に必要な最新の知識と技能の修得並びに今日の教育現場での課題についての理解を深めることを目指す。

◆担当講師

- 田嶋 一 國學院大學文学部名誉教授
- 齋藤 智哉 國學院大學文学部准教授
- 長澤 貴 鈴鹿大学短期大学部教授

◆シラバス

講義名	教師としての教育観・子ども観についての省察
担当講師	田嶋 一
講義概要	教育は発達への助成的介入である、と定義することができます。このような定義をふまえて、①教育（エデュケーション）とは何か、という大きな問いに向き合い、教育についての理解を深めることをめざします。②教育は次世代養成システムの一つです。次世代養成システムには、他に形成や教化のシステムがあります。これらを支える概念や思想を比較しながら、教育とは何か、という問いに迫っていきたいと思います。③カルチベート（大地を耕す→心を耕すこと）やディベロップメント（発達）の歴史的な意味も考えていきたいと思います。④以上の様なことをふまえながら、現在とこれからの社会の教育論、子ども観の望ましいありようについて考察し、また教師の社会的役割や研修（研究と修養）のあり方について考察することをめざします。
評価方法	講義にもとづく筆記試験

講義名	国の教育政策や世界の教育の動向―次期学習指導要領を中心に―
-----	-------------------------------

担当講師	齋藤 智哉
講義概要	<p>本講義では、世界の教育動向を踏まえながら、国内の教育政策の動向を確認する。具体的には、世界的な教育動向を紹介しつつ、次期学習指導要領の内容に関して「主体的・対話的で深い学び」や「資質・能力」に焦点を当てて理解を深める。</p> <p>21世紀型スキルやグループ学習＝協同的学び（collaborative learning）の理解を深めるとともに、受講者自身の実践のリフレクション（省察）を通して、今までの実践を「主体的・対話的で深い学び」へ翻案していく道筋を探究していきたい。その上で、受講者各自の課題を明確にすることを、本講義の最終的な目標とする。今後の教員生活を豊かにするためにも、日常的に交流のない先生たちと出会い、学び合う時間をともに創ることができればと思います。</p>
評価方法	講義にもとづく筆記試験による

講義名	発達から考えるアクティブラーニング
担当講師	長澤 貴
講義概要	<p>こどもの発達観についての最新の知見を、ピアジェからヴィゴツキー、トマセロへの発達観の変化として概観する。ピアジェは、年齢段階に基づいた段階的な発達観と個人主義、認知主義的な発達観を構築したが、ヴィゴツキーは、それとは異なり、文化・歴史・社会的な発達観を唱えた。このような発達観そのものの変化を理解した上で、特別支援教育や集団のあり方、そして、カウンセリングマインドについても概観する。</p>
評価方法	講義にもとづく筆記試験による

【選択必修】社会の担い手となるための学びとは

◆時間数 6時間【選択必修領域】「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」

◆講習内容

生徒が社会の担い手となるためにあるべき進路指導やキャリア教育を考え学ぶことを本講習のテーマとする。中等教育において「仕事」の意義を生徒に実感させる学びとはどのようなものか、「職」の現状と高度情報化社会・知識基盤社会の到来による人間存在の変化を踏まえ、教科教育との連携も視野に入れながら受講者とともに検討する。

◆担当講師

手島 純 國學院大學文学部兼任講師

高橋 大助 國學院大學文学部教授

◆シラバス

講義名	進路指導とキャリア教育
担当講師	手島 純、高橋 大助
講義概要	<p>生徒が社会の担い手となるためにあるべき進路指導やキャリア教育を考え学ぶことを本講座のテーマとする。中等教育において「仕事」の意義を生徒に実感させる学びとはどのようなものか、「職」の現状と高度情報化社会・知識基盤社会の到来による</p>

	<p>人間存在の変化を踏まえ、教科教育との連携も視野に入れながら受講者とともに検討する。</p> <p>授業の構成は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「進路指導とキャリア教育」 概論（文部科学省のキャリア形成に関する論点の整理） 2 「進路指導とキャリア教育」 実践における注意点（進路指導での現実の問題の整理） 3 「教科教育とのかかわりについて（社会科篇）」 4 「高度情報化社会・知識基盤社会における進路指導とキャリア形成」 5 「教科教育とのかかわりについて（国語科篇）」 6 まとめと試験 <p>（1から3を手島が、4から6を高橋が担当します。）</p> <p>なお、1から5では、レクチャーのほか、受講者の方々に、グループワークをしていただく予定です。</p>
評価方法	講義にもとづく筆記試験による